

燃え広まれ反戦の炎、起ちあまれ大学自治擁護のために

反戦六月行動を方スサークルの創意ある行動で埋めつくし 6/15全南西集会の大衆的成功を!

パリ会談を民主主義的講和の第一歩に、
侵略者ニモ、ソ、ン、ソ、ン、侵略加担者佐藤に
追撃を。

一週間にわたる平和交渉は決定しているもの——それはハトナムであった。孤立の深まりの中で遂にパリ会談に就いた米帝は、自己に有利な解決をめぐして最後のあかきな續けている。ハトナムでは解放戦線と米軍の攻防が繰り返れ、米軍は歩一歩追いつめられている。世界の世論も米帝を支持していない。

ハトナムの民主主義的講和——それは大爆の即時全面停戦と米軍の撤退以外にはありえず、しかもその予いの展望は明るく切り拓かれている。侵略加担者佐藤も動搖を来している。

極左戦術を拒否し、ハトナム反戦、佐藤内閣打倒の広汎な声を「6月行動月間」に結集しよう。

かかる時期のヨリは、広汎な反戦平和の力の凝集を現実の日程に上せている。この時に三派「全学連」及びその要求する自称「統一会議」へ主張をの「反戦平和」あるいは極左戦術は極めて相違がある。今、学友・国民すべての内にある反戦平和の世論を振り起し、ニ、ヨ、ン、ソ、ン、佐藤追撃の大衆的ヨリを登場させることが必要であり、そのためには、極左戦術を断固として批判し、あらゆる所から追放せねばならない。

「6月行動月間」——市大をワラス、セ、ミ、学友部委員会、サークルの創意あふれる行動で埋めつくし、6/15全南西学生総決起六千名集集に集中しよう。

極めて遺憾なことにも市大でも、全学友の統一を阻む方向が4月ヨリ争の過程で、自称「主張派」のものによって提起された。「4、26史観スト」なる方針は、その主義とクラス引き直し主義によって惨めな失敗に終わったが、それが市大の運動に与えた損害は取り除けないものがある。その批判的統括の中から「反戦6月行動」は早く中絶の行動提起のみに終るのではなく、ワラス、セ、ミ、学友部委員会、サークルの創意あふれるヨリで支えられねばならない。クラス単位で教員をも含んだ討論、クラス単位での街頭での署名、ヒラミ、セ、ケン、学内ヨリ、討論集会の組織——ワラス、セ、ミ、サークルの運動をつくりあげていかねばならない。市大を反戦、佐藤内閣打倒の声を埋めつくそう。

全学区

統一会議
(民学同派)